

がんを克服して100キロマラソンを告知された。「急に命と向き合う状況になり、生活の全てを召し上げられたイメージだった」という。難病の間質性肺炎も併発し、入院は10カ月に及んだ。



ランナー仲間の励ましを受け、03年に初出場したサロマ湖100キロウルトラマラソン(北海道)への復帰を闘病のゴールに決めたという。退院直後は横断歩道で信号が赤に変わるまでに渡り切れなかったほどの状態から、リハビリや猛トレーニングを重ね、13年に同大会に再び挑んで完走した。「がんから6年かかって、ようやく人生の振り出しに戻れた」と大久保さん。昨年は、発病前に出していた自己記録の更新もした。

がん克服しマラソン出場

大久保さん(野出身)講演

商工中金 諏訪支店 (諏訪市大手1)の取引先企業の若手経営者でつくる諏訪商工中金ユース会は20日、第33回通常総会と講演会を同市のRA KO華乃井ホテルで開いた。講演会では、がんを克服して100キロマラソンへの再出場を果たした茅野市出身の大久保淳一さんが「人生には、いつでも、何度でも、チャンスがある」と題して語った。

大久保さんは現在、がん患者を支援する活動の代表を務めている。「希望さえ持ち続けたら、どんな試練も乗り越えられる」と話した。

会員ら約25人が出席。総会では今年度の事業計画などを決めた。役員改選も行い、奥原賢一代表幹事を再任した。任期は2年。(手塚洋一)

大久保さんは40代前半だった2007年、家族、仕事、趣味のマラソンと充実した生活を送っていたが、がん